

## 平成29年度 事業報告

### 1、事業の概要

内閣府発表の月例経済報告地域経済動向によると北海道の景況判断は、「一部に弱さがみられるものの、穏やかな回復基調が続いている。」となっております。雇用情勢は着実に改善されているものの、個人消費は底堅く推移し、住宅建設は減少、公共工事も減少、水産物水揚げ量は前年を下回るという状況で、景況感は、先行きの不透明な状況であり、江別市シルバー人材センターを取り巻く経営環境は、依然として厳しいものがあります。

北海道においても雇用情勢の改善は、有効求人倍率で全国平均を下回るものの統計開始以来の最高値を記録し、企業の人材確保は、事務的職業を除き大変厳しい状況となっております。このような人手不足を背景として、29年度の当センターの派遣就業は、冬季アジア大会の派遣があった前年度の「7,160万円」を下回ったものの「6,221万円」の契約額となりました。一方、請負就業は、「基準単価の見直し」により、前年度を「406万円」上回る「2億2,148万円」となりました。請負と派遣を合わせた総契約額では、前年度の「2億8,903万円」を1.8%下回る「2億8,369万円」となりました。今後も第3次中長期計画に基づき「**会員数の増強**」「**適正就業の推進**」「**派遣事業の拡大**」「**経営基盤の強化**」等に取り組んでいくことが求められています。

**事業目標の達成状況**については、会員数では前年度の「801人」から「722人」と「79人」の減少となり、目標値である「850人」には程遠い厳しい結果となりました。また、契約金額も目標値「3億0,250万円」を下回る「2億8,369万円」となりました。一方で、派遣就業延人日については、目標値の「12,001人日」を「80人日」上回る「1万2,080人日」を達成することができました。

以下、平成29年度の事業実施状況の詳細について、報告します。

## 2、事業実施状況

### (1) 会員数の増強

全国シルバー人材センター事業協会の会員100万人達成の目標値と北海道シルバー人材センター連合会の北海道会員目標を基に、平成29年度は850人を目標としましたが、722人に留まりました。

年 度	目標数	会 員 数
平成24年度	—	758人
平成25年度	—	640人
平成26年度	—	670人
平成27年度	740人	749人
平成28年度	890人	801人
平成29年度	850人	722人

- ① センター情報を発信するため、公共施設等にポスターの掲示や街頭啓発を行い、センター事業の普及啓発と新会員の入会促進に努めました。
- ② 職域班や地域班活動を通じて、口コミによる入会を行いました。
- ③ 子育て、介護、家事援助サービスなど女性の就業ニーズに応えるため女性限定入会説明会を行うなど女性会員の入会を積極的に進めました。
- ④ 毎月センター及び元気プラザ'sで開催する入会説明会に加えて、江別、野幌、大麻地区等で11回の出前説明会を開催し、手続きを簡素化して入会を促進した結果、70名が出前説明会に参加し、22名の新会員が入会しました。

### (2) 適正就業の推進

一般企業等による受託事業については、国の「適正就業ガイドライン」に基づきその内容を精査し、請負契約が困難なものについては、シルバー派遣事業への切り替えを進めました。

(受託事業)

平成29年3月末現在

区 分	受注件数	前年比	契約金額 (円)	前年比 (円)
公 共 事 業	98	▲8	32,620,787	▲4,372,882
一 般 企 業 等	747	▲52	121,207,151	6,099,193
個 人 ・ 家 庭	5,651	62	65,024,098	2,823,752
独 自 事 業	2	0	2,631,544	▲487,597
計	6,499	2	221,483,580	4,062,466

## (派遣事業)

平成 29 年 3 月末現在

区 分	受注件数	前年比	契約金額 (円)	前年比 (円)
公共事業	3	1	6,763,790	2,234,513
一般企業等	48	▲6	55,445,430	▲11,630,711
計	51	▲5	62,209,220	▲9,396,198

## (事業契約実績)

年度別	29 年度	28 年度	27 年度	26 年度
受託事業	22,148 万円	21,742 万円	22,187 万円	22,791 万円
派遣事業	6,221 万円	7,161 万円	5,000 万円	3,897 万円
合 計	28,369 万円	28,903 万円	27,187 万円	26,688 万円

- ① 法令を遵守し、高齢者に適した就業を行うことは、公益社団法人にとって大変重要なことであり、社会的な責任をもってその役割を果たしました。
- ② 公共施設等の就業は、会員の交代又はローテーション就業により公平な就業機会の確保に努めました。
- ③ センター内に就業情報板を設置するなど新たな就業先を会員へ紹介しました。

## (3) 派遣事業の拡大

企業の人手不足が進む中、適正就業を推進することにより、派遣事業の実績は冬季アジア大会の一時派遣がなくなったにもかかわらず、延就業人数では平成 29 年度目標値の 12,001 人を 80 人日上回り、契約金額も前年度より 940 万円減少したものの 6,221 万円となり、今後も拡大が期待されます。

## (派遣就業延人数実績)

年 度	派遣人数
平成 24 年度	4,199 人日
平成 25 年度	6,218 人日
平成 26 年度	7,036 人日
平成 27 年度	10,302 人日
平成 28 年度	13,212 人日
平成 29 年度	12,080 人日

#### (派遣事業実績)

年度別	29年度	28年度	27年度	26年度	25年度
受注件数	51件	56件	44件	21件	16件
契約金額	6,221万円	7,161万円	5,000万円	3,897万円	3,433万円
就業延人員	12,080人日	13,212人日	10,302人日	7,036人日	6,218人日

- ① 27年度から継続的に就業開拓員による市内民間企業や行政等への訪問によって、新たな就業先の確保に努めました。
- ② 地域の労働力不足を補うために、シルバー派遣事業をより一層拡大し、多様な就業機会を確保するための新規の就業開拓に努めました。
- ③ 「元気プラザs」については、派遣事業の拠点としての活用を継続しました。

#### (4) 財政健全化に向けた経営基盤の強化・改善

国の補助金の削減により厳しい財政運営を続けてきましたが、平成27年度から始まった高齢者サポート事業補助金により安定的な運営資金が確保されました。

#### (補助金実績)

年度別	29年度	28年度	27年度	26年度
連合交付金	23,541千円	23,381千円	16,780千円	9,280千円
市補助金	23,541千円	23,381千円	16,780千円	10,080千円
合計	47,082千円	46,762千円	33,560千円	19,360千円

- ① 就業の拡大により事務費を確保しました。
- ② 派遣事業の拡大により手数料を確保しました。
- ③ センター事業の趣旨に賛同する賛助会員を増やしました。
- ④ 最低賃金の上昇に対応する配分金の見直しを行いました。
- ⑤ 独自事業の「堆肥・腐葉土・エコ石鹼」作りは、採算性や作業工程の効率化に努めました。
- ⑥ 諸経費の節減を進めました。

#### (5) 安全就業と事故防止

安全衛生委員会では、安全就業の徹底に向け、以下の5項目の対策を行いました。平成29年度は9件の事故が発生しましたが、傷害事故が3件に減少しましたものの、損害賠償事故が6件発生し、今後は、自らが加害者とならないための取組みや健康保持への取組みなどが求められています。

- ① 安全パトロールを強化し、安全意識の啓蒙と事故防止に努めました。
- ② 安全標語の募集、安全宣言大会参加者を拡大し、常に安全旗を掲揚するなど、安全と事故防止のための諸行事への参加を促しました。

**安全標語最優秀賞 「今一度 その確認が 事故防ぐ」**

- ③ 安全保護具の着用と機械器具の点検整備を強化し、事故防止に努めました。
- ④ 請負会員には健康診断の受診を奨励し、派遣会員には健康診断を実施しました。また、保健師による健康相談事業も実施しました。
- ⑤ 「団体傷害保険・総合賠償責任保険」に継続加入しました。

**平成 29 年度事故概況**

**(傷害事故 3 件)**

(前年度 7 件)

性別	年齢	仕事の内容	事故の状況
男	75	機械草刈り	草を持っている手に刈払機の刃が接触し、右手裂傷
男	71	剪定	シートの下段差に足を滑らせ左足をひねり骨折。
女	65	パック詰め等	コンテナからトレーが滑り落ち頭部にあたり裂傷。

**(賠償事故 6 件)**

(前年度 2 件)

性別	年齢	仕事の内容	事故の状況
男	75	墓苑管理	墓地の樹木を地上 1 m50 c m まで下枝を無断伐採。
男	68	機械草刈り	草刈り作業中飛び石で走行車両のボディーを破損。
男	67	機械草刈り	草刈り作業中飛び石で駐車車両の窓ガラスを破損。
男	70	機械草刈り	草刈り作業中飛び石で窓ガラスを破損。
男	75	剪定	時期はずれの剪定により赤松が枯死。
女	73	水やり	苗の水やりを忘れ、苗が枯死。

**(6) 公益社団法人としての組織体制の強化**

派遣事業の拡大に向けて臨時職員を採用したほか、会員による事務補助員も就業させ、組織体制の強化に努めました。

年度別	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度
正職員数	4 人	4 人	4 人	4 人
臨時職員数	5 人	5 人	4 人	2 人
業務補助員数	1 人	2 人	2 人	4 人

- ① 公益社団法人として、健全な運営や透明性の確保、地域社会への貢献、法令順守など認定法に基づく事業運営を行いました。

- ② 地域組織活動の活性化に向けて、地域班組織を見直しました。
- ③ O A機器の整備により効率化に努め、事務局体制の強化を検討しました。

### (7) 技術・接遇等の向上

剪定や冬囲いなどの技能講習を行ったほか、新たに市民向け刃物研ぎ講習会を行いました。

講習会名	日時	会場	参加人数
剪定講習会	7月5・6日	山岸宅	6人
冬囲い講習会	10月4・5日	山岸宅	5人
刃物研ぎ講習会	12月4日	センター研修室	26人
刃物研ぎ講習会	12月11日	センター研修室	26人
会員研修会(安全衛生)	2月2日	セレモニ-ホールはやし	70人
福祉家事援助清掃講習会	2月15日	センター研修室	23人
公共施設管理接遇研修会	3月7日	センター会議室	9人
刃物研ぎ講習会	3月12日	センター作業室	10人

### (8) ボランティア活動の推進

ボランティア就業に関する女性会員説明会を開催しました。また、超高齢化社会に向けてワンコインで地域の高齢者を支援するゴミ出しや灯油宅配の事業を有償ボランティアとして継続しました。

### (9) 広報活動の強化

- ① 会員の増強や受注の拡大ために、新聞広告やチラシ配布を継続するほか、市窓口封筒への広告掲載を行いました。
- ② 会員一人ひとりが会員増強や事業拡大を意識し、口コミによる広報活動に取り組みました。

### (10) 関係機関団体等との協力連携

江別市、北海道労働局、全国シルバー人材センター事業協会、北海道シルバー人材センター連合会、道内外のシルバー人材センター等と連携し、事業の円滑な運営に努めました。